

偕楽園の萩

東日本大震災で大きな被害を受けた、偕楽園で萩まつりを開催しているという情報を得て、久しぶりに同園を訪れた。いつもの駐車場から、常磐線を渡る陸橋を通ると、早くも大震災の爪痕が確認できた。車椅子の人も容易に渡れるように設置されているエレベーターは、震災のためかその後の節電のためか判らないが、入口が封鎖されていた。

陸橋を渡り、いつもの南側の道路(右側)から、園内に入ろうとしたが、復旧が間に合わず、入ることはできません。左側斜面にある吐玉泉や竹林を経由する道しか通ることはできません。私は竹林の横を通過して、萩の咲いている偕楽園の東側に出ました。

そこにはいつもと変わらない紅萩と白萩が咲いていました。この萩と好文亭のマッチングが素晴らしく、これをカメラに収めました。その好文亭は今も閉館したままでした。萩は梅程品種の差が判りません。花のひとつひとつをマクロレンズを通して見ると、その表情がひとつひとつ異なり、かつ萩がマメ科の草であることが良く判ります。萩の花はマメ科の花だけあって、偕楽園に咲く、左近桜、梅、つつじのような華やかさはありません。しかしながら、秋の穏やかな日にぴったり合うような、美しい花でした。そして、一つ一つの花をレンズを通してみていると、私を撮ってくださいと主張している花があって、思わずシャッターを切ってしまいます。

この花の咲く場所の東側の斜面には、大震災で大きく崩れた部分があって、この部分に観光客が入れないように、孟宗竹で仕切りが作られていました。この孟宗竹は偕楽園の竹林から取れたものです。萩の花の茎もこれらの堀の一部に使われていました。

私はかなりの時間、そこに居て、アングルや光の具合を視ながら、萩との対話を楽しみました。観光客の数は、平日ということもあるのでしょうか、少ないように感じます。前回訪れたときは、観光客がカメラの視野から消えるタイミングをはかってシャッターを切ったような記憶があります。また、池や通路等を修理したり、芝に肥料をまいている等の光景をあちらこちらで見かけます。私はこれらの多くの方と、きれいに咲いた後も役に立っている萩等に感謝しながら、公園を去りました。



偕楽園萩と好文亭



紅萩の花



復旧工事の案内



刈り取った萩の木で作成された塀

2011年9月9日